

2024 フクシマ連帯キャラバン参加報告書

3月16日から3月20日まで、福島、茨城、東京でキャラバン行動を行ってきました。私は17日から参加しました。17日は午前中キャラバンの学習会をした後、請戸小学校の見学に行きました。5年前キャラバンに参加した時は外までしか見学できませんでした。今回は、中を見学して当時の悲惨さを目の当たりにしました。中に入って当時小学生だった人たちの作文を読んだとき、胸が張り裂けそうな思いでした。友達と離れ離れになった子、自分が住んでいた場所から非難しないといけなくなった子。小さい子たちの夢と思い出が一瞬としてなくなったと思うと言葉が出ませんでした。伝承館では、地震当時の映像や福島第一原発事故当時の音声などが展示されていました。その中でも自分が思い出に残っているのは兄を震災で亡くした弟が兄の遺影の前で、プラレールで遊ぶ写真でした。その写真に添えられている文章には兄がなりたかった電車の運転手になるという文でした。自分にも兄弟がいますが自分の身内を小さいころに亡くしていたらとても寂しく耐えられない気持ちになると思いました。

18日は、津島地区に行き原告団の方のお話と当時住んでいたお家を拝見させていただきました。当時津島地区では、原発事故から非難してきた人たちでいっぱいになったと話していました。トイレは詰まり、診療所では薬が無くなり診察が困難になるほどだと聞いてどれだけ大変だったか想像がつかないほどでした。原告団の方の家の中は荒れ果てた状態でとても人が住めない状態でした。

19日は茨城に入り自治体要請行動をしました。自分としては自治体要請が初めてだったので、自分たちの気持ちを伝えたらわかってもらえるのではないかと甘い考えをもっていました。現実には、どこの役所も住民の意見を聞いて住民の安全を一番に考えながら、再稼働の話を進めていくと言われました。隣県の福島で起こった事故があるにも関わらずなぜ再稼働を進めなければならないのか苛立ちが込み上げてきたと同時にやるせない気持ちになりました。自分たちの活動は誰のために活動しているのだろと思いました。

20日は、代々木公園で集会が行われました。そこには、原発反対に賛同してくれる仲間の皆さんが集まっていました。壇上に上がった時若い人たちが頑張れと声を掛けてもらいました。そして、壇上から降りた時、自然と涙が溢れてきました。自分たちだけでなくこんなにも一緒にいてくれる仲間がいるのだからこの活動は、無くしてはいけないものだと感じました。核と人は共存できないこと、これからの子供たちのために原発は不必要なものだと強く訴えていき同じ事故が二度と起こさないように私たち若者が声を上げていくためにフクシマ連帯キャラバンを続けていきたいと思いました。

東北青年婦人部財政部長 滝本春仁